

山形市都市計画マスタープラン地域別構想

飯塚地区



山形市

地域別構想の役割

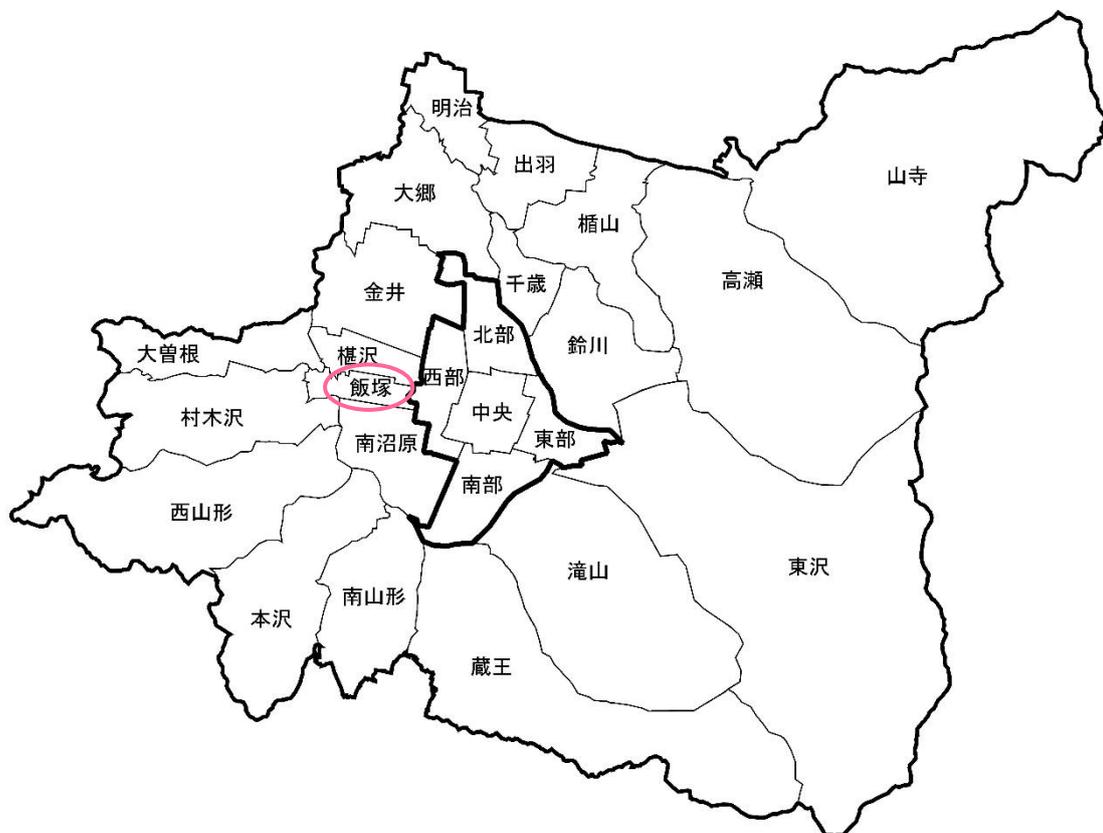
■地域別構想とは

全体構想や分野別構想における各地域の位置づけ等を踏まえ、地域特性や固有の課題に応じた地域ごとのまちづくりの方針を示すものです。

■地域区分の考え方

都心地域については、歴史的な経過や地理的条件、地域特性などから、ある一定のまとまりをもってまちづくりを考える地域として東西南北中央の5つの地域に区分します。

都心地域以外の地域については、旧村単位の地域ごとに地域づくりの拠点として、コミュニティセンターが設置され、それぞれの地域ごとに独自のまちづくり活動を展開していることから、旧村区域により20の地域に区分します。



1 地域の特徴と課題

地域の特徴

◆市街地西側に隣接する地区で、道路沿いに形成された集落の周辺には平坦で優良な田園風景が広がっています◆

- ・地区の大半は圃場整備のされた優良農地（農振農用地）で占められ、地区内を東西に走る県道下原山形停車場線の沿線に集落が形成されています。
- ・水稻農業のほか、ハウス施設による園芸作物の栽培も盛んな地域で、「きゅうり」や「トマト」、「菊」などの畑が広がっています。
- ・地区内には、市指定有形文化財の「延文二年弥陀三尊板碑」などの歴史・文化資源が点在しており、地区内の史跡には「飯塚の歴史散歩」と称して、案内板が設置されています。
- ・市内25地区の中で、面積が一番小さい地区になっています。



地区を取り囲む田園風景



園芸作物の栽培が盛んな地域

◆人口は減少傾向にあり、高齢化が進んでいます◆

- ・人口は、20年間で約15%減少しており、人口の減少傾向が続いています。
- ・人口に占める高齢者の割合は約30.1%となっており、20年間でおよそ15%増加しています。また市全体の27.1%と比較しても、高い割合となっています。

	飯塚地区				
	総人口(人)	～14歳	15～64歳	65歳～	年齢不詳
平成7年	3,985	651	2,703	631	0
平成27年	3,376	518	1,841	1,014	3
増加数	-609	-133	-862	383	3
	山形市全域				
平成27年	253,832	31,869	151,271	68,745	1,947

◆地区内を東西に走る主要な道路は、市西部と市街地を直結しています。◆

- ・地区の中央を県道下原山形停車場線が東西に通っており、通勤時間帯には、市西部と市街地を行き来する自動車交通で多く利用されています。
- ・県道下原山形停車場線や市道上樫沢沼木明神前線は、通学路に指定されているものの、交通量が多い上に狭隘であり、危険であるという意見が地区全体から多く出ています。
- ・地区内に、市西部と市街地を直結する（都）東原村木沢線が都市計画決定されています。



県道下原山形停車場線



市道上樫沢沼木明神前線

◆買い物の便利さ、自動車の利用のしやすさに対する満足度が低くなっています◆

- ・地区内に日常生活に必要な買い物ができる施設が少なく、買い物の便利さに対する満足度が低くなっています。
- ・市民アンケートにおいて、自動車・自転車の利用のしやすさや、通勤・通学のしやすさについての満足度が低くなっています。意見交換会において道路の安全性の向上を求める意見が多いことから、地区内の道路に対する満足度が低くなっていることが伺えます。
- ・県道下原山形停車場線を、中心市街地行きの路線バスが1路線運行しており、集落全体でバス停までの距離が比較的近くなっていますが、運行本数などの面から利用しにくいとの意見が出されています。

◆地区内に浸水の恐れのある区域があります◆

- ・河川空間を有効活用した「飯塚町運動広場」が整備され、地域住民のレクリエーション活動の拠点となっています。
- ・須川から飯塚コミュニティセンター付近までの地域は洪水浸水想定区域に指定されています。
- ・集落内を流れる飯塚川は、準用河川に指定され、事業計画区間の改修が完了しています。

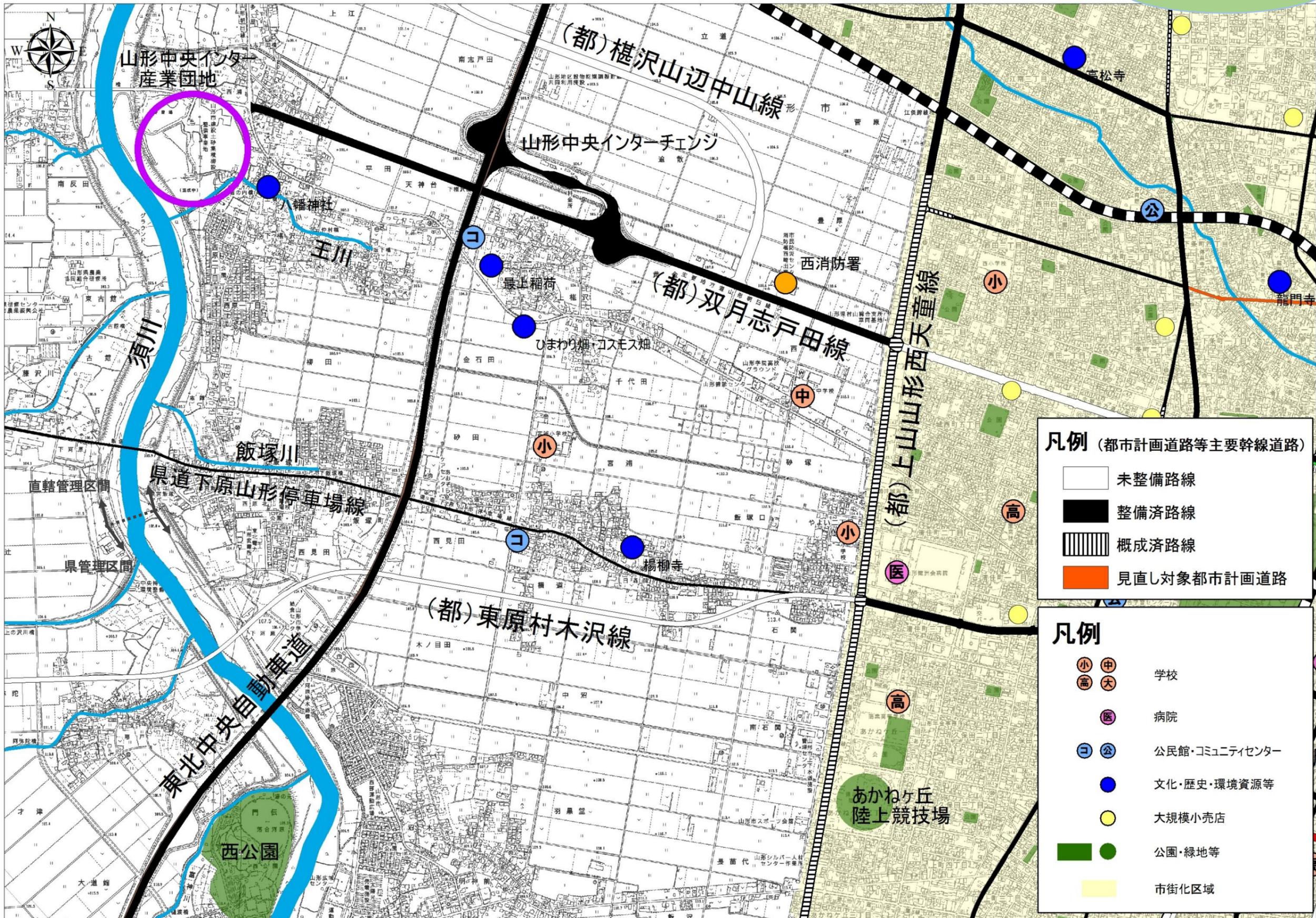


須川



飯塚川

地区概況図



凡例 (都市計画道路等主要幹線道路)

	未整備路線
	整備済路線
	概成済路線
	見直し対象都市計画道路

凡例

	学校
	病院
	公民館・コミュニティセンター
	文化・歴史・環境資源等
	大規模小売店
	公園・緑地等
	市街化区域

地域の課題

土地利用に関する課題

- ・人口減少や高齢化へ対応するため、市街地に近く生活利便性が高いという地域特性を活かしながら、地区内への定住・回帰を促進し、集落の活性化を図る取り組みが必要です。
- ・地区を取り囲む田園は、農業の生産基盤であるとともに、国土の保全や水源の涵養、良好な景観の形成など多面的な機能を有する貴重な財産であることから、維持・保全していく必要があります。
- ・人口減少や高齢化の影響により、地区内に空き家や耕作放棄地が発生してきていることから、空き家対策や農地の集積・集約による有効活用の促進が求められています。
- ・平成21年に移転した学校給食センターの跡地について、利活用がされていない状況が続いていることから、跡地の利活用を検討していく必要があります。



学校給食センター跡地

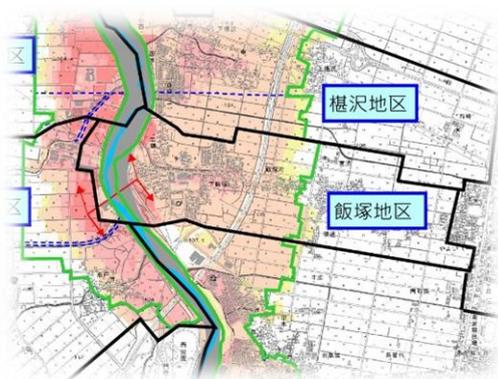
交通に関する課題

- ・地区内を中心市街地直結の路線バスが走っていますが、利用者数が少ないため、さらなる高齢化の進展を見据え、公共交通の利便性向上と利用促進により、生活利便施設へのアクセスを確保・維持していくことが必要です。
- ・県道下原山形停車場線など地域住民も多く利用する地区内の主要な道路は、市西部から市街地へ向かう自動車の通過交通が多いうえ、幅員が狭いといった課題があります。また、通学路に指定されている箇所も多いため、交通渋滞の解消や交通安全の確保が必要です。
- ・周辺地域と市街地を直結する道路として地区内に計画されている（都）東原村木沢線は、「山形市都市計画道路見直し計画」において継続候補となっていますが、計画決定から長期間にわたって未着手となっています。
- ・集落を南北に縦貫する形で、（都）榎沢山辺中山線を南方向へ延伸する将来構想路線があります。



その他まちづくりに関する課題

- ・洪水浸水想定区域に指定されている地域では、被害を最小限に抑制するための防災・減災対策が必要です。
- ・地区の西側を流れる須川に整備された運動広場を、うるおいのある河川空間を活かした市民の憩いの場として、今後も維持・有効活用していく必要があります。
- ・須川の河川改修（築堤）は完了していますが、河道断面が完成形でないため流下能力が低く、大雨の際の洪水の危険性は未だ高い状況です。
- ・都市計画マスタープラン地域別構想の策定を契機とし、地域住民主体の積極的なまちづくり活動を促進するとともに、これを行政が積極的に支援する仕組みづくりが必要です。



洪水浸水想定区域図



運動広場

地域の声（意見交換での意見や地域の要望など）

【土地利用】

- ・西バイパス西側に買い物の場や公共施設が少ないため、都心地域からの距離が近い飯塚地区内の農地を開発するべきだという意見が出ています。

【交通】

- ・（都）東原村木沢線について、整備の促進に対する要望の他に、現在の計画で整備することが困難な場合は、ルートを変更して山形駅西から直結する道路を整備することも検討するべきだという声があります。
- ・路線バスは便数が少なく利用しづらいため、便数を増やして運行してほしいという意見が出されています。

【その他まちづくり】

- ・山形駅から近いという利点を活かし、地区内に新スタジアム（サッカー場）を建設してほしいという意見が出されています。
- ・飯塚地区内に公園が少ないという状況から、給食センター跡地を活用して公園を整備してほしいという要望が出ています。

3 まちづくりの基本方針

緑豊かな河川や田園風景に囲まれた魅力ある居住環境と

安全で快適な道路空間の創出による、暮らしやすいまちづくり

土地利用に関する方針

- **集落地区の定住環境の創出による地域コミュニティの維持・活性化を図ります。**
 - ・ 開発許可等の基準に関する条例等を活用した、移住・定住や二地域居住の促進
 - ・ 空き家バンクや住宅リフォーム支援などを活用した空き家対策による移住者向け住環境の整備推進
 - ・ 日常生活サービス機能の確保・充実による生活利便性の向上
- **農業の生産基盤であるとともに都市の営みにうるおいを与える豊かな田園などの優良農地は、担い手の確保・育成を図りながら、保全・活用します。**
 - ・ 後継者や新たな担い手の確保による優良農地の保全と耕作放棄地の発生抑制
 - ・ 農地中間管理機構や農業団体と連携した農地の集約・集積の促進
 - ・ 戦略農産物の生産振興による農業経営の安定化と農地の有効活用
 - ・ 都心地域に近接した田園が持つ都市環境としての機能の保全
- **学校給食センター跡地の土地利用方針を検討します。**

交通に関する方針

- **ニーズを踏まえた公共交通網の再編により、公共交通の利用を促進します。**
 - ・ 公共交通の利用促進による路線の確保・維持
 - ・ 地域住民の交通行動に沿った路線バスの再編検討
 - ・ 食料品店舗や医療機関など暮らしに必要な施設までの生活交通の確保
- **良好な居住環境の確保に向け、生活道路の質的向上を図ります。**
 - ・ 主要な生活道路の部分改良による、日常生活の利便性及び安全性の確保
 - ・ 歩行者や自転車利用者の安全性に配慮した通学路の環境改善
 - ・ 冬期間における適正な除排雪による安全な通行の確保

- 地域内の通過交通を低減し、交通渋滞の解消と交通安全性を確保するため、(都)東原村木沢線の整備を促進します。

- ・市西部と都心を結ぶ(都)東原村木沢線(都心直結道路)の整備促進

その他まちづくりに関する方針



- 須川の治水対策の推進による浸水被害の軽減と洪水ハザードマップの見直しにあわせた防災体制の構築により、水害に強いまちづくりを進めます。

- ・須川の河道掘削工事の事業促進
- ・飯塚川の河床浚渫による流水機能の確保
- ・地域住民への洪水ハザードマップの普及・周知
- ・災害発生時の迅速かつ適切な避難に向けた防災意識の高揚・啓発

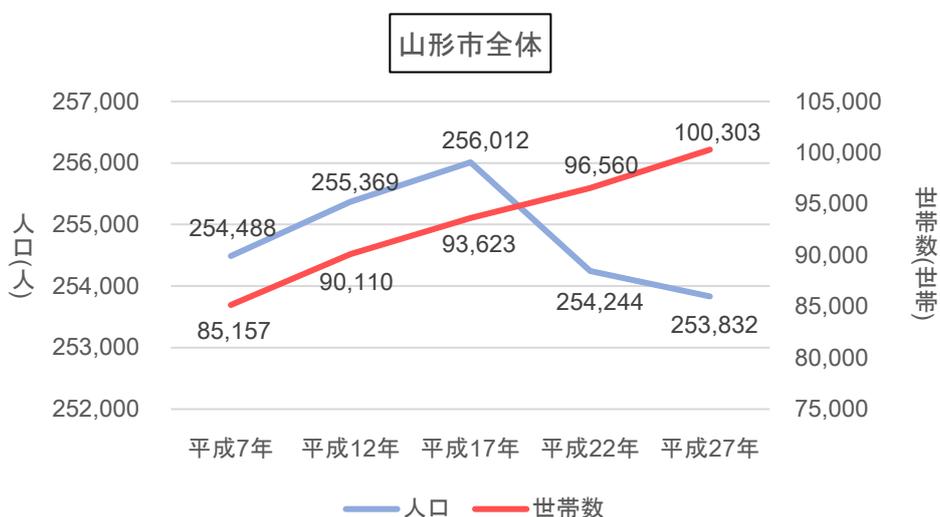
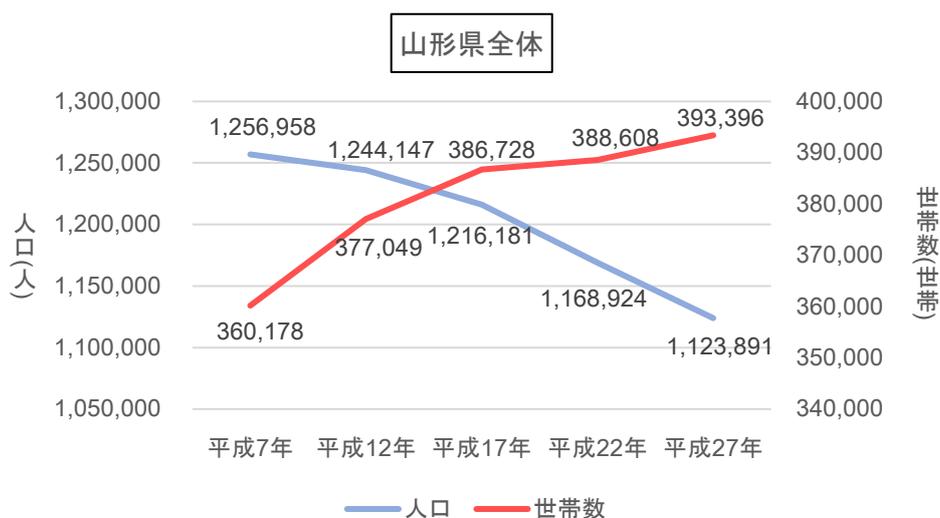
- 須川の魅力ある河川空間は、市民のふれあいやレクリエーション活動の拠点として保全・活用します。

- ・地域住民が主体となった須川河川敷の運動広場の有効活用

- 地域別構想の実現に向けた効率的かつ効果的なまちづくりを進めるため、地域の自主的なまちづくり活動に対する支援を図ります。

- ・まちづくりに関する専門家の紹介や派遣、情報提供
- ・地域のまちづくり活動に対する市職員の積極的な派遣と活動支援

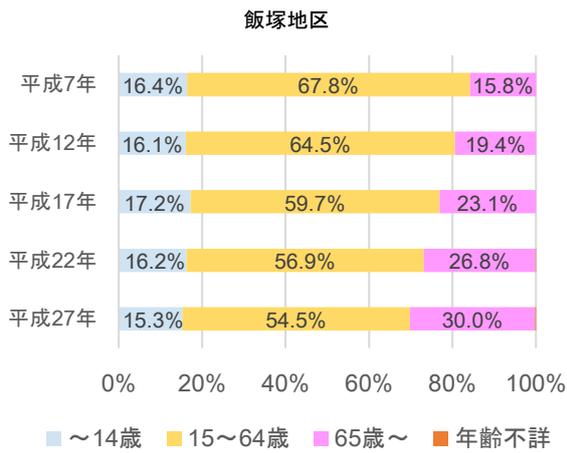
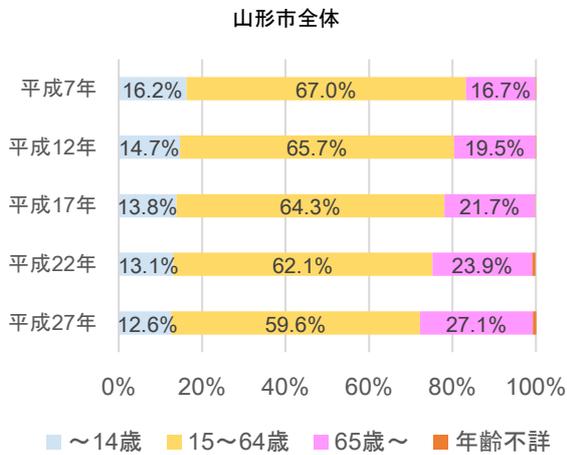
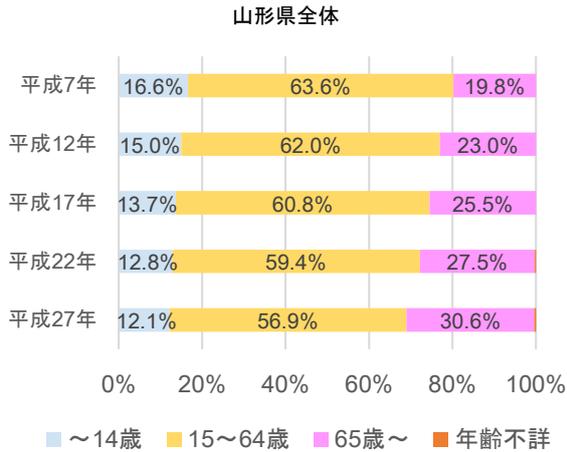
① 人口・世帯数



出典：国勢調査

【地域データ】

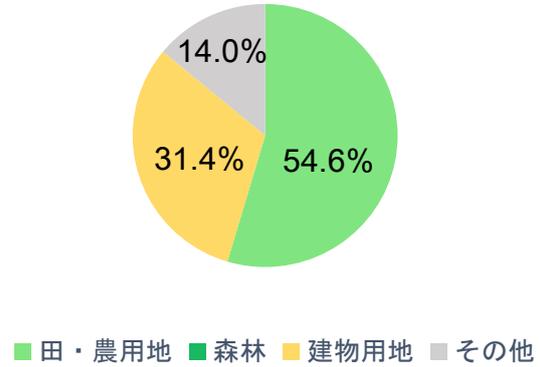
② 年齢構成比



出典：国勢調査

③ 土地利用割合 (H26)

地区の総面積 242ha



出典：国土数値情報（土地利用細分メッシュ）

④ 産業別就業者数

(単位)人

	平成7年	平成17年	平成27年
第1次	182	144	109
第2次	614	455	394
第3次	1,263	1,202	1,082
分類不能	12	37	70

出典：国勢調査

⑤ 産業別事業所数・従業員数

		平成18年	平成24年
事業所数 (件)	第1次	0	0
	第2次	28	30
	第3次	62	73
		平成18年	平成24年
従業員数 (人)	第1次	0	0
	第2次	309	260
	第3次	209	594

出典：事務所・企業統計(H18)、経済センサス(H24)

⑥ 商店数

	平成9年	平成26年
商店数(店)	30	22
店舗面積(m ²)	663	1,090

出典：商業統計

飯塚地区

【地域データ】

⑦ 居住住宅種類

(単位)戸

	平成7年	平成17年	平成27年
持ち家	809	822	799
公営住宅	192	229	129
民営借家	54	42	124
給与住宅	86	76	54
間借り	0	19	6
住宅以外	4	0	2

出典：国勢調査

⑧ 道路

国道	県道	その他	合計
0.0km	3.0km	10.3km	13.3km

出典：DRM (H28) のGISによる図上計測

⑨ 都市計画道路の整備状況 (H29.4.1現在)

整備済延長	事業中延長	未整備延長	計画延長
0.9km (30.6%)	0.0km (0.0%)	2.0km (69.4%)	2.9km

※整備済延長には概成済及び暫定2車線供用済路線を含む

※()内は計画延長に対する割合

出典：GISによる図上計測

⑬ 新築動向 (H24~28)

	専用住宅	その他住宅	商業施設	工場・倉庫	宿泊施設	娯楽施設	病院
戸数(戸)	58	3	3	5	0	0	0
面積(m ²)	7,216.1	272.4	799.2	217.7	0	0	0

出典：山形市資料

⑩ 公園 (H29.4.1現在)

計画箇所	計画面積	開設箇所	開設面積	m ² /人
0	0	2	0.24	0.71

出典：山形市資料

⑪ 農地転用 (H24~28)

田		畑	
件数	面積(m ²)	件数	面積(m ²)
3	3,899	4	1,391

出典：山形市資料

⑫ 開発許可申請状況 (H24~28)

市街化区域		市街化調整区域	
件数	面積(m ²)	件数	面積(m ²)
0	0	40	62,714

出典：山形市資料

【地域データ】

⑭ 公共公益施設

小学校	宮浦小学校
中学校	
高校	
特別支援学校	
大学	
専修学校等	
認定こども園	
認可保育所	すみれ保育園、飯塚はらっぱ保育園
幼稚園	竹田西部幼稚園
公官庁等(県・市)	
公民館・コミュニティセンター	飯塚コミュニティセンター
文化施設	
高齢者福祉施設	飯塚なごみの里
その他の福祉施設	
スポーツ・レクリエーション施設	
病院	
警察署	
消防署	